



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第23回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

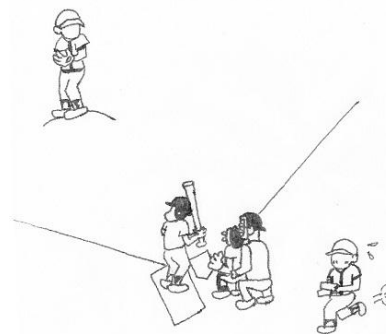
マナー編 大切な心配り (秋季近畿大会でのできごと)

出塁した選手の防具を引き取りに来た三塁側ベンチの選手が、次の投球が始まるギリギリにバックネット前を横切っていました。球審が注意するケースもありましたが…。

かつては規則4・03(d)【注】に、「捕手線を横切ってはならない」等の文言がありましたが、2007年の規則改正で削除されました。当時の解説文には、「捕手線が本塁後方の三角地帯を示すと考えられていた規則制定時と条文の実態が合わない」が理由で、続けて、「インプレイ中に本塁後方周辺で守備側のプレイを邪魔してはならない。」と強調しています。

淀みなく流れを大切にするとしても、物事の妨げになつては意味を成しません。出塁した打者のアームガードや自打球ガードなど、素早く引き取りに往来するのは大切なベンチワークです。球場によってはベンチからの距離が遠くなる場合もあります。タイミングを見計らって、プレイの妨げになりそうな時は、一塁コーチャーボックスの後方のフェンス前に下がり、必要ならば低い姿勢で待つことも許される範囲ではないでしょうか?

規則書の折り込み、競技場区画線に示されるバックストップ付近やバックスクリーンに当たる場所は、特に視界を遮らないのが鉄則です。投球の間、プレイの合間など素早い行動を心がけるのは大事ですが、何より危険を伴います。そして、「邪魔をしない・妨げにならない」という気づかいや心配りを確認しましょう。それは爽やかな好ゲームを支える見えない力なのです。



ルール編 打者走者への制限 (秋季県大会でのプレイ)

一死満塁、二塁へのゴロで三塁走者は本塁でフォースアウト、打者走者も一塁でアウトのダブルプレイでチェンジ。この時、球審が打者走者をスリーフットレインまで誘導し、何か注意している様子でしたが…。どういうことでしょうか?

本塁から一塁までは90フィート(約27.4m)あり、中間の45フィート地点から一塁に向かってスリーフットラインが引かれています。このスリーフットラインとファウルラインに囲まれた部分をスリーフットレインと呼びます。

規則 6・05 は打者のアウトを規定する条項ですが、その(k)に、「一塁に対する守備が行われているとき、本塁一塁間の後半を走るに際して、打者がスリーフットラインの外側(向かって右側)またはファウルラインの内側(向かって左側)を走って、一塁への送球を捕えようとする野手の動作を妨げたと審判員が認めた場合。」とあり、原注では「スリーフットレインを示すラインはそのレインの一部であり、**打者走者は両足をスリーフットレインの中もしくはスリーフットレインのライン上に置かなければならない。**」と規定されています。

上記のケースは、打者走者が一塁へ向かう後半にファウルラインの内側を走っていました。一塁でアウトになったとしても、ルールに合致したプレイを促すため、球審はその場所まで誘導して注意と確認をしたのです。

なお、打球を処理する野手を避けるために、スリーフットラインの外側、またはファウルラインの内側を走ることは許されています。

